

森岡組、推進地下工事を受注 日系初、中小建設の越進出に弾み

水道管の推進地下工事などを手掛ける森岡組（奈良県五條市）は、ホーチミン市で推進工法による水道管の埋設工事を受注した。日系企業が同種の工事を受注するのは初めてであり、ベトナムにおける推進工法の採用も今回が2例目。地上に影響を及ぼさない工法として、先進国では一般的に採用されているが、今回の工事を通じて推進工法の有用性がベトナム当局に理解されれば、同工法を得意とする日系企業の受注拡大に弾みがつくとみられている。



24日に行われた起工式の様子＝ホーチミン市（CBSグループ提供）

工事はサイゴン水道供給総公社（Sawaco）が地場企業インドチャイナ・エンジニアリング・コンストラクション・インベストメント（ICE）社に対して約2,000万円で発注。森岡組はICEから推進工事部分の委託を受け、ホーチミン市トゥードック区と9区にま

として採用する方針を定めた。森岡組が受注した今回の工事は、今後の本格採用に向けたパイロット（試験）事業として位置付けられているという。

日本の土木技術を越で活用

森岡組は、ベトナム進出を支援するCBSグループ（大阪市淀川区）が2010年に立ち上げた「中小建設企業のベトナム進出プロジェクト」のメンバー。同プロジェクトは、日本国内における建設市場の先細りが予測される中で、中小建設会社などが持つ優れた土木技術をベトナムで活用することを目的に設立された。建設機械のレンタル、販売などを手掛ける管機械工業（大阪市西区）も名を連ね、ほかに基礎工事や港湾土木、建築設計といった専門技術を持った合計14社で構成する。

これまでベトナムにおける日系の建設会社が受注する工事は、政府開発援助（ODA）関連の大規模工事や日系企業の工場などがほとんどだった。CBSグループの井上最高経営責任者（CEO）は、NNAに対して、「日本とベトナムの民間企業が協力して、ホーチミン市人民委員会から直接指名された工事であり、ODA以外のルートで日本の中小建設会社が受注できるルー

たがる幹線道路であるハノイ道路の真下を横切る形で直径600ミリ、長さ71メートルの上水道管を埋設する。

工事はハノイ道路脇にICE社が発進立坑と到達立坑を掘り、森岡組が推進機械を使って上水管を押し進める工事を担当する。今月24日に起工式が行われ、完成は9月初めを予定している。

推進工事は、上下水道管を地下に埋設するための工法で、埋設管そのものを地下で目的地まで押していく施工方法。地上への影響がなく、近年ではほとんどの先進国の上下水道工事は推進工法によって実施されている。これに対して、ベトナムでは、地上から掘り起こして管を埋設する開削（オープンカット）工法が主流だ。

昨年、ホーチミン市人民委員会が工事による交通渋滞回避などのため、市街地では今後、推進地下工法を主体

トを開拓したことに大きな意義がある」と説明。

森岡組の川田昌宏社長は「記念すべき第1号工事として、ホーチミン市当局に認めてもらえる施工に努める」と抱負を語った。また、CBSの中井政昭社長は、上下水道工事にとどまらず、将来的には基礎工事や港湾土木での受注にも意欲を見せた。



右から中井社長、川田社長、井上CEO、CBSベトナムのホアン・ゴック・ランディレクター＝ホーチミン市